

\*江戸東京博物館は大規模改修工事のため2026年春(予定)まで休館しております。

## 館外展示でみる 江戸博コレクション



### CONTENTS

- 館外展示・巡回展の紹介
- 研究の散歩道 海を越えた交流がもたらす文化の発展
- えどはくカルチャー オンラインお申込み受付中
- 全国歴史民俗系博物館協議会 年次集会報告

館外展示

出張！江戸東京博物館

2025年2月22日(土)～  
2月26日(水)

東京都美術館 ロビー階第4公募展  
示室、1階第4公募展示室、2階第4  
公募展示室

昨年度に引き続き、当館の常設展示室が上野の東京都美術館に出張します。本展では、常設展示でおなじみの「千両箱」や「人力車」などの体験模型を中心に、その関連資料を展示します。また特集展示として、時代とともに変化する上野の風景について、錦絵や絵葉書などから紹介します。多彩な江戸博コレクションをご覧いただき、江戸東京の歴史と文化を体感していただけますと幸いです。



東京

近代版画に見る都市の創成  
1920～30年代 江戸東京博  
物館コレクションより

2024年11月6日(水)～

2025年2月1日(土)  
パリ日本文化会館(フランス)

2022年度に続き、パリにて当館の収蔵品展の第2弾を開催しています。これまでパリで紹介される機会が少なかった日本近代版画により、1920～30年代の東京の近代化を紹介。東京という都市が大きく変化していく姿をご覧いただくとともに、江戸博コレクションの名品を世界に発信します。



QuizKnock と巡る  
江戸東京博物館展

東大発の知識集団 QuizKnock とコラボした本展覧会では、休館中ご覧いただけない常設展示室のうち「江戸ゾーン」からセレクトした多彩な絵画をはじめ、当時の人々の暮らしがよくわかる歴史資料を中心に豊富な江戸博コレクションを巡回展示しました。常設展示室で人気の「大名駕籠」や「棒手振り」などを実際に体験できる本展は、2024年に岡崎市美術博物館、静岡市歴史博物館で開催し、2025年4月より東北歴史博物館(宮城)で開催予定です。



岡崎市美術博物館

どうぶつ百景

—江戸東京博物館コレクションより

大都市として発展を遂げた江戸東京では、動物がさまざまな形で人の暮らしに関わってきました。飼育される犬や猫、ともに働く牛に馬、観察される鳥や虫……そんな人と動物の暮らしを、当館のコレクションを通して紹介する展覧会です。動物が生き生きと描かれた版画作品や版本、工芸品や玩具など約230件を展示する本展は、2024年に東京ステーションギャラリー、山梨県立博物館で開催し、2025年4月より愛知県美術館、7月より富山県水墨美術館に巡回予定です。



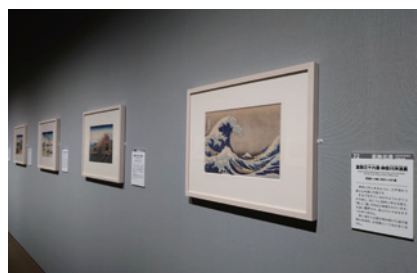
東京ステーションギャラリー

北斎と広重

富嶽三十六景への挑戦

江戸東京博物館コレクションより

2024年4月より、展覧会「北斎と広重 富嶽三十六景への挑戦 江戸東京博物館コレクションより」が中之島雪香美術館(大阪)、岡山県立美術館、大分県立美術館を巡回しました。本展では、葛飾北斎の代表作「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」をはじめとした「富嶽三十六景」全46図や、歌川広重の「東海道五拾三次之内」、「名所江戸百景」などの名作について、2人の絵師の「挑戦」をキーワードにご紹介しました。3会場で延べ10万人以上の方にご来場いただきました。



中之島雪香美術館



# 海を越えた交流がもたらす文化の発展 〜2024年日中韓博物館国際シンポジウムに参加して〜

学芸員

張天石・文

16世紀ごろ、中国南部の蘇州で呉派という絵画の流派が人気を博した。呉派の画家は、自身の画風を形成する過程で古画の学習を非常に重要視した。彼らは唐から元代にかけての古画を繰り返し模倣し、大家の画法、様式、思想などを理解できて初めて良作が描けると考えていた。同



歴代名公画譜 谷文晁／模画 1798年(寛政10) 資料番号 88208182

時期に中国では出版事業が著しく発展し、過去から当代までの画家を網羅的にまとめた画譜や画論書が大流行した。

こうした書物は、17世紀以降、貿易船によって日本にも多数もたらされた。琳派や狩野派の画家たちは、輸入された版本から中国の古画を学んだ。中国と日本の異なる時代で活動していた画家が、海を越えた交流によって、同じような手本からそれぞれ独自の画風を形成した。これまでは、呉派の画風を中心に東洋絵画を研究してきたが、絵画史を理解する重要なカギとなつたのは、国際的な文化交流だった。

さて現在、様々な国際交流の場があるが、そうした中、江戸東京博物館ではこれまで、当館、北京首都博物館、瀋陽故宮博物院、ソウル歴史博物館の4館で毎年持ち回りで日中韓博物館国際シンポジウムを開催し、各館の代表者が発表している。今回私はこのシンポジウムに参加する機会を得た。会場となった中国北京市の通州区は、都市機能の分散先として近年急速に開発が進められている。その一環で2023年に竣工した北京副都心三大文化建築（北京芸術センター、大運河博物館、北京都市図書館）には、最新技術を導入した展示や体験施設があった。シ

ンポジウムでは、「博物館教育の革新と未来の発展」というテーマで議論し、当館はえどはく学生サポートスタッフの活動やデジタルアーカイブ「TomuCo」を紹介。参加者から高い関心が寄せられた。各館で抱える博物館教育に関する課題は様々だが、学校連携やデジタル技術の新たな手法が、解決の糸口になるという認識は共通していた。

海を越えた交流は、文化の発展を促進する重要な要素になる。私は今回のシンポジウムを通じて、国際的な交流、ひいては人と人との交流は、文化のつながりを深め、博物館の発展に繋がると改めて感じた。今回の経験で得た学びを活かし、今後も継続して自身の研究を深めていきたい。



筆者撮影 日中韓博物館国際シンポジウムの様子



図書室の 仕事 Vol.13

図書室から  
お知らせ

## 本の輸送で 気をつけること

大規模改修工事中、図書室の本は温湿度がしっかり管理された外部の倉庫で保管しています。そして本が必要になった際は、倉庫から取り寄せ、活用が終わった本は再び外部の倉庫に戻します。

本も人間と同じで、保存環境の変化により影響を受けることがあります。当館の収蔵資料の中には古い貴重な本も多く、そ

ういった本は特に注意が必要です。そのため、輸送する本を梱包する際は、写真のようになるべく箱の中央に重ねて入れ、周りを緩衝材でくるみ、空気の層を厚めにします。

外部での本の保管と輸送という特殊な事情の中で、本の状態をこれまで以上に注視している毎日です。



本の梱包の様子

## えどはくカルチャー オンラインお申込み受付中

現在、講座「えどはくカルチャー」は、江戸東京たてもの園や上野の東京都美術館にて開催しています。2024年3月から受付を開始したオンラインによるお申込みは、簡単な入力や、講座日前に届くお知らせメールなどが好評で、たくさんの方々にご利用いただいています。なお、今まで通り往復はがきでのお申込みも受け付けております。

皆様のお申込みを  
お待ちしております

えどはくカルチャー  
お申込みはこちらから



## 全国歴史民俗系博物館協議会 年次集会報告

### 全国歴史民俗系博物館協議会 令和6年度年次集会が歴博で開催！

全国歴史民俗系博物館協議会は、歴史民俗系博物館の被災資料レスキュー活動を目的に発足した全国的ネットワークです。例年7月頃に幹事館会・総会・研究集会・情報交換会からなる年次集会(全国大会)を開催しています。昨年度、コロナ禍を経て4年ぶりに情報交換会を除いて再開。そして今年7月4日に国立歴史民俗博物館(千葉県佐倉市)を会場に情報交換会も含め全面再開しました。他の3つの会議とちがいが、会場を自由に行き来し呼んだり呼ばれたりするこの会合。ともしれば雑談、されど得難い情報交換の機会です。能登半島地震の被災資料救援活動はもちろん、災害対応など様々な話題がとび交いました。活動の原動力となる生の交流がようやく戻ってきました。



研究会の様子

### 休館情報

当館は2022年4月1日から2026年春(予定)まで大規模改修工事のため休館中です。休館中も館外の他会場等を活用した事業を実施しています。詳細につきましては確定次第、ホームページやSNS等でお知らせいたします。

うえのさんのうだいさいこうたかもりどうぞう  
上野山王台西郷隆盛銅像

ようまいのかみす  
楊齋延一/画 1899年(明治32)  
資料番号 09870027-09870029

表紙  
解説

西郷隆盛は明治維新を実現した中心人物でしたが、政府と対立し、明治10年(1877)の西南戦争で自刃しました。逆徒と扱われた一方で、西郷に対して敬愛を示す者も多かったため、明治22年(1889)の大日本帝国憲法発布に際して、大赦されました。

その後、大赦を記念して、明治25年(1892)東京美術学校に銅像制作が委嘱されました。当初は皇居前広場に建設する予定でしたが、西郷が西南戦争で皇室に弓を引いたため、上野公園に変更され、明治31年(1898)に除幕式が行われました。

(学芸員 杉山哲司)

